

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	デザイン概論	
科目基礎情報							
開設学科	グラフィックデザイン科		コース名	全コース		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位					授業形態	講義
教科書/教材	参考資料等は、授業中に配布する。						
担当教員情報							
担当教員	角田 知義			実務経験の有無・職種	有・ディレクター		
学習目的							
デザインは“考え方”と“行為”と“成果”のレベルで語ることができる。この授業では、デザインの歴史を参照しつつこれらの三つのレベルで考えることにより、デザインの課題、役割、今後の展開について考察することを目的とする。デザインの全般的な知識。デザインを考える上で必要な方法論の理解。							
到達目標							
「デザインを考える力」を身につけるための第一歩として、デザインの全体像と関係性を把握する事を目標とする。特に現代社会でデザインが関わる、諸々の事象の意義を理解する事に重点を置いていく。							
教育方法等							
授業概要	授業では教員の講義を聴講すると共に、テーマに沿った内容について映像を見て理解を深めていく。毎回授業最終に振り返りシートを記入して理解度合いを確認していく。						
注意点	必要な資料はその都度用意して配布していく。聴講内容に関してしっかりと記録すること。中間と最終にレポートを作成し提出していく。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出と評価を受けることができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・レポート	60%	レポート・試験・課題を総合的に評価する				
	ワーク	30%	授業内容の理解度を確保するために実施する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1回	デザインの今を考える		デザインを取り巻く環境と学び方を考える				
2回	構成のちから		構成と設計、モノづくりの原点を考える				
3回	編集のちから		アートとデザインの違いを考える				
4回	アイデアのちから(1)		アイデアを生み出す基礎、観察と整理を考える				
5回	アイデアのちから(2)		発想、定着、具現化、計画、設計を考える				
6回	デザイン近現代史1		産業革命とアーツ・アンド・クラフツ運動、万国博覧会				
7回	デザイン近現代史2		20世紀「デザインの時代」の源泉、バウハウス以前				
8回	デザイン近現代史3		バウハウスの意味、バウハウスの人々とその時代背景				
9回	デザイン近現代史4		第二次世界大戦後、経済成長期、日本のデザイン				
10回	デザイン近現代史5		アナログからデジタル化、ネット化の時代変化の中で				
11回	現代社会におけるデザイン		デザインと産業と社会と人の関わり				
12回	デザインで解決出来るコトとは		地球資源、地球環境、弱者へのデザイン				
13回	多様な問題解決		手段としてデザインのあり方を考える				
14回	デザイン思考		デザイン思考とコミュニケーションとイノベーション				
15回	Cool Japan と デザイン		グローバルとローカルなデザインについて				